

インクルーシブな学級をつくる教師の教育観（要旨）

特別支援教育サブプログラム

大木 幸恵

【指導教員】 名越 斎子 葉石 光一

【キーワード】 インクルーシブ教育 教育観 学級経営

1. 問題の所在と目的

インクルーシブ教育は、「学習、文化、コミュニティへの参加を促進し、教育内および教育からの排除を減らすことを通して、すべての学習者の多様なニーズに取り組み、対応するプロセス」と定義されている（ユネスコ, 2005）。「すべての学習者」には、障害のみならず、学習上・行動上の困難を抱えている子供や、経済的な理由などにより教育から疎外・排除されてきた子供なども含む。

日本におけるインクルーシブ教育の理念は、文部科学省より2012年「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」で提唱されたが、その対象は「全ての子どもたち」ではなく障害のある児童生徒と限定的なものであった。しかし、2021年文部科学省中央教育審議会（答申）で、様々な困難を抱える子供たちを含む、個別の幅広いニーズに応える「令和の日本型教育」が打ち出された。これは全ての子供たちの様々なニーズに応じるという点でインクルーシブ教育と方向性が同じと捉えられる。多様な子供たちの教育的ニーズに応え一人一人に質の高い教育を保障するためにも、インクルーシブ教育を推進していく必要がある。また、直接の担い手である教師がインクルーシブ教育の理念をもって学校教育を推進していくことが重要だと考える。

多様性を前提とした、一人一人が個性を發揮する教育や学級づくりの実践の裏には、教師の教育観や児童観が土台となって支えていると考える。したがってインクルーシブな学級をつくる教師の指導行動・態度の背景にある教育観や児童観の検討が、インクルーシブ教育を推進する根本的な検討に繋がると考える。そこで本研究では、インクルーシブな学級をつくる教師の教育観を明らかにすることを目的とする。

2. 方法

「多様な教育的ニーズを持つ子供たちがおり、一人一人が良さを發揮できる学級の担任教師」としてA市特別支援教育コーディネーター等から推薦された公立小学校の通常の学級担任7人を対象とし、1時間程度の半構造化面接を行った。データの分析には、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いた。分析テーマを「担任教師の教育観がインクルーシブな学級形成に影響を与えるプロセス」、分析焦点を「発達障害の可能性のある児童等多様な教育的ニーズを持つ子供たちを含む、一人一人の良さを発揮で

きる小学校通常学級の担任」と設定した。音声記録を逐語録化し、1件目データから、分析テーマに関連がありそうな具体例（語り）に着目し、解釈、定義をして概念を生成した。併せて概念間の関係を考え、複数の概念からカテゴリーへの統合を行った。最終的に、7件のデータをまとめ、結果概要の文章、結果図を完成させた。

3. 結果と考察

分析の結果、11個の概念と4個のカテゴリーが生成された（概念は〈 〉、カテゴリーは【 】で表す）。インクルーシブな学級をつくる担任教師は、ありのままのその子を受け容れようとしている【個の尊重】。【個の尊重】の過程には〈個を理解しようとする姿勢〉があり、自分の見方だけにとらわれず〈多面的・多角的視点〉をもって子供を理解し、〈個の成長〉やその過程を捉えて、一人一人の子供に対し〈それぞれの違いを認める〉ことをしていた。併せて、〈よさを認める、価値づける〉ことや学級で個人の良さを広めて共有すること〈大事なことの共有〉を通して子供たちにそれぞれの良さがあることを教えていた。

また学級集団のなかで、教師や子供たちの関係性を重視し、【つながりのある集団】を育んでいた。担任教師は学級全員にルールなど生活する上での〈大事なことの共有〉を図り、子供の良さを互いに認め合う活動等を行いながら、教師や子供たちの〈つながり〉を深めている。そのような教育観のもとに行う支援が、心理的安全性をもたらし、学級が【安心した環境】として機能していた。また、担任教師は子供に対して、自分の状況や思いなどを子供が自らを見つめ返したり行動したりしてほしいと願い、そのような機会を設けていて、【自律を促す方向付け】が抽出された。

【個の尊重】、【つながりのある集団】、【自律を促す方向付け】という担任教師の教育観が、インクルーシブな学級形成へ繋がると捉えられた。

教師を支える環境を整えることが、これらの教育観を持つ教師の育成に繋がり、インクルーシブ教育の推進を後押しすると考える。そのためには、管理職のインクルーシブ教育への理解とそれを学校運営に反映することが重要である。これらが教師の実践を支える環境作りへと繋がり、教師のインクルーシブ教育の実践を支えると考える。

主な参考文献

ユネスコ(2005). Guidelines for Inclusion: Ensuring Access to Education for All